

# 高麗大学校 元会長 李 鶴洙（イ・ハクス）氏

## スピーチ 日本語訳

尊敬する田中愛治総長、そして早稲田大学の先生方と学生、校友の皆さん！

創立141周年を迎えた日本最高の名門私立大学である早稲田大学で名誉法学博士号を取得できたことを大変光栄に思います。学位授与に努めてくださった早稲田大学関係者の皆様に深く感謝申し上げます。併せて、この場にご来場くださった高麗大学校の皆様にも深く感謝申し上げます。私が頂いた今日のこの名誉博士号は早稲田大学と高麗大学校、そして両校の校友会が築いてきた友情と協力の賜物です。早稲田大学と高麗大学校が今後も交流し協力し、永遠に共に発展していくことを心よりお祈り申し上げます。

2023年10月22日、本日は私の人生で誠に大切に光栄な一日として記憶に残ることでしょう。

今日この場で私は77年の自分の人生を振り返り、人生のいくつかの場面を懐かしく思い出します。

私は1946年生まれで、第二次世界大戦終戦直後に生まれました。高校生の頃、大学入試のために過去問題集で勉強しましたが、そこに韓国の大学だけでなく日本の名門大学の入学試験問題も入っていました。

その中には早稲田大学の入試問題もありましたが、漢字で"早稲田大"となっていました。その時は「早稲田大学」ではなく「ゾドジョンデ」と読み、日本に「ゾドジョンデ」という有名大学があることを知りました。

1965年、私が高麗大学校に入学した時、早稲田大学のサッカーチームが韓国に来ました。

早稲田大学と高麗大学校がサッカーの試合をしましたが、当時勝敗は覚えていませんが、早稲田大学の選手で背番号9番をつけてプレーしていた選手は覚えています。

その選手の技量があまりにも素晴らしかったからです。後から調べて見ると、日本のサッカーの英雄、釜本邦茂選手でした。

スポーツが好きな私はその日以来早稲田大学という名前を聞くと釜本選手を思い浮かべ、釜本選手の消息を聞くと早稲田大学を思い浮かべました。

高麗大学校卒業後1971年、私はサムスングループに入社して40年間勤めました。

ご存じかと思いますが、サムスングループ創業者である故イ・ビョン Chol 会長は早稲田大学に通ったことがあり、また先代会長の故イ・ゴンヒは早稲田大学を卒業しました。

特に私はイ・ゴンヒ先代会長を近くで23年間支えてきた関係もあり、当時ソウルの早稲田大学卒業生たちが同窓会をする時は私に連絡をして、その頃には私がおの方々をかなりたくさん存じ上げていました。

そして2010年9月、李健熙（イ・ゴンヒ）先代会長が早稲田大学名誉法学博士号を取得した際に会長と同行して、その学位授与式の現場にいました。

李健熙（イ・ゴンヒ）先代会長が授与された早稲田大学名誉法学博士号を本日は私がもらうことになり、本当に光栄で感無量です。

尊敬する貴賓の皆様！

私は2016年から2019年まで高麗大学校の校友会会長を務め、母校と校友会のために力を注ぎました。

その時、毎年5月に開催される高麗大学校開校記念行事と10月に開催される早稲田大学開校記念行事に両校関係者が互いに訪問し合いました。

高麗大学校の校友会会長として早稲田大学からいらっしゃった方々に韓国でお会いし、また私が早稲田大学を何度か訪問しているうちに、自然と私のなかに早稲田大学は"日本の高麗大学校"というような身近な気持ちが芽生えました。

本日私は早稲田大学の名誉博士号を頂き、これをもって早稲田大学の一員になれました。

早稲田大学と高麗大学は長い交流を通じてお互いを深く理解し、親密に接する関係、真の友好関係を築いてきました。

両校は親密な友好関係を通じてお互いに学び、それぞれより良い大学になるために努力しています。

私は個人であれ企業であれ、社会であれ国であれ、周辺との友好関係が非常に重要だと思います。なぜなら、人間がするすべてのことは共同作業だと言えるからです。

私が40年間在職していたサムスンが今日のグローバル企業に成長するには、隣国の日本企業との関係が重要な影響を及ぼしました。

つまりサムスンは日本の企業から助けられ、刺激を受けながら成長しました。

たとえば、今のサムスン電気はサムスン三洋から出発し、今のサムスンSDIはサムスンNECから出発しました。

私が李健熙（イ・ゴンヒ）先代会長のもとで働いていた時期に横浜と大阪に三星(サムスン)の日本研究所を作り、東京にある三星(サムスン)日本本社は三星(サムスン)の海外拠点の中で最も重要な役割を果たしました。

私は三星(サムスン)だけでなく大韓民国の経済もやはり日本との友好関係で成長したとっており、その過程で私も微力ながら韓国の経済発展と先進化に寄与できたことにやりがいと感謝を感じています。

企業家として、私は「機会の先取り」と「自利利他」を経営哲学として生きてきました。

「機会の先取り」の意味と重要性は皆さんよくご存知なので、あえて申し上げなくてもよさそうです。

「自利利他」は簡単に言えば「自分に有利で他人にも利益を与える」という意味ですが、私は企業の活動がこのようなものでなければならないと思います。

企業は自分に利益がなければ長く持続することはできず、他人と他の企業にも利益を与えなければ長く持続することはできません。

お互いに利益を与える関係を善隣友好、共生協力、互惠的關係と言えるでしょう。

高麗大学校と早稲田大学は古くからお互いに利益を与える友好関係を築いてきたと思います。

その結果今日私が早稲田大学の名誉博士号を頂いたことに改めて深く感謝いたします。

早稲田大学と高麗大学校が自利利他、善隣友好、共生協力、互惠的關係の中で永遠に共に発展していくことを心よりお祈り申し上げます。

ありがとうございます。

2023年10月22日

李 鶴洙（イ・ハクス）